

◇一橋大学フェアレイバー研究教育センター連載⑥

◇はじめに

米国における移民運動の大高揚 (下)

行動に向けて移民労働者を教育する

ケント・ウォン JOC-LAレバーセンター ナイレクター (所長)

ヴィクトー・ナロー JOC-LAダウントウン・レイバーセンター プロジェクト・ナイレクター

翻訳／中島 醸 千葉商科大学商経学部

二〇〇七年一月、アメリカ労働運動の改革派や移民労働運動を代表するリーダーであるケント・ウォン(カリフォルニア大学ロサンゼルス校労働研究教育センター: Center for Labor Research and Education, University of California Los Angeles)が来日された。一橋大学や連合などの労働組合、日本労働弁護団、移住労働者と連帯する全国ネットワークなどで、アメリカ労働運動の最新動向、とくに南カリフォルニアでの移民労働者組織化の進展と二〇〇六年の移民運動の大高揚について、講演して歩かれた。

二〇〇六年春、移民制度改革が米国連邦議会で焦点化する。下院を通過した「センセンブレナー法案」は非正規滞在移民と彼らを支援した者に刑事罰を科す内容であつた。この法案に正規滞在、非正規滞在を問わず移民たちは大きく反発し、二〇〇六年三月から五月にかけて、全米各地を米国史上最大規模—数百万人を動員するデモが席巻する。五一日のメーデーで最高潮に達し、移民たちの集住地域では事実上ゼネストに近い状態が出現した。移民法案そのものは、二〇〇七年に入り審議が打ち切られ、二〇〇八年の大統領選後まで棚上げになつた。これらの移民運動大高揚を理解するうえで有益な論文が、ケント・ウォンさんが共著で執筆された論文「二〇〇六年の移民運動の大高揚—その源と展望」(本誌一六六二号掲載)と「行動に向けて移民労働者を教育する」(本文掲載)である。そこで掲載誌の出版元の許可を得て翻訳し、本誌に掲載することとした。なお、共著者はいずれもJOC-LAレイバーセンターのスタッフである。

*1 Victor Narro, Kent Wong, and Janna Shadduck-Hernández, "THE 2006 IMMIGRANT UPRIISING Origins and Future" in *New Labor Forum*, Volume 16, Issue 1, Winter 2007.

翻訳：高須裕彦 一橋大学大学院社会学研究科フェアレイバー研究教育センター

移民運動大高揚の背景と内部状況 なんら役割を果たさなかつた労働組合、移民運動と労働運動の内部における方針

対立、反移民勢力の反撃、今後、労働運動の果たすべき役割について論じる。

*2 Kent Wong and Victor Narro, "Educating Immigrant Workers for Action" in *Labor Studies Journal*, Volume 32, Number 1, March 2007.

翻訳：中島 醌 千葉商科大学商経学部

ウォンさんは率いるJOC-LAレイバーセンターがロサンゼルス地域の労働運動と密接に連携しながら「移民労働者資料センター」を立ち上げ、移民労働者やリーダーたち、次世代の教育をどのように進めようとしているかを論じている。

二〇〇六年五月一日、アメリカのメーデー史上、最大のデモが行なわれた。この国際労働者デー (International Workers' Day) に、全米で何百万もの労働者が街頭でデモを行ない、多くの人が仕事に行かずに家にとどまり、さらに多くの人が全国的なボイコットを支持して商品を買うことを拒否した。ロサンゼルスだけでも、五〇万人以上の人々がデモに参加して街頭を行進した。これは、ロサンゼルス市の歴史上、最大規模のものであつた。

皮肉なことに、アメリカ史上最大のメーデーの行進は、アメリカ人の労働運動が先頭に立つたものではなく、移民の権利のための組織やコミュニティ・宗教団体、一部の労働組合、ラテン系アメリカ人のメディアなどを含む広範な連合によつて率いられたものであつた。

運動がこのような驚くべき高揚を見せた」とことで、労働教育に携わる者たちは、新たな機会と新たな課題に直面する」となる。二〇〇六年五月にシアトルで開催された「全米労働教育協会」(United Association for Labor Education) でわれわれは、労働教育者の間で資源(resource)を共有するために、移民対策作業部会(task force on immigration)を立ち上げた。本論文は、JOC-LA労働研究教育センター(通称、レイバーセンター)の移民の権利に関する活動の一部を

紹介する。また同時に、私たちが最近立ち上げた「移民労働者資料センター」(Immigrant Worker Resources Center)についても紹介したい。この論文で紹介される諸活動が、移民の権利向上に关心のある労働教育者間の議論を開始する契機となることを期待したい。

◇ 移民労働者の組織化

ロサンゼルスという都市は新しいアメリカ労働運動の中心として浮上しており、移民はこの活性化の中心的役割を果たしている。移民は、ビル清掃労働者(janitors)や建設労働者(laborers)、トラック運転手から、在宅介護・ホテル・クリーニング・保健医療・スーパーマーケットの労働者、壁職人によるまで、労働運動における組織化の勝利のほとんどにおいて移民労働者は成功の鍵を握ってきた。ロサンゼルスの至るところで移民労働者たちは、自分たちの職場での権利や組合を組織するための権利のために闘つてきた。

はこの二つの移民労働者の団体に組織化を勝ち取る支援を行ない、効果的な役割を果たしたのである。

移民制度改革についての連邦議会での討論に対応した、労働や移民権利団体による人ひとのデモや集会への動員は、インフォーマル経済のなかで働いている数百万もの移民への市民権(civil rights)付与を求める大規模な全国的キャンペーンが形成されたことを示した。三月二五日にロサンゼルスでは、何十万もの移民が、尊厳のある移民政策を要求するために市庁舎に対してデモ行進を行なった。このデモへの動員は「私たちはアメリカだ」("We Are America")連合」の創設につながった。この連合を通じ労働組合や移民権利団体は、移民制度改革闘争のために、それぞれの経験、資源、そして支持基盤を結合した。

その目的は、ロサンゼルスの労働運動での大きな勝利をさらなる運動の発展の足がかりにすることと、移民の権利のための運動内でのアクティビズムの広がりを支援することである。

◇ CO-LAダウンタウン・レイバーセンターの立ち上げ

1991年のレイバー・デーにグレイ・ディヴィス(Gray Davis)州知事は、1000人にものぼる組合員やコミュニティ団体のメンバーの前で、「UCLAダウンタウン・レイバーセンター」開設のテープカットを行なった。ダウントン・レイバーセンターは、UCLAレイバーセンターのプロジェクトとして、労働組合やコミュニティ団体、労働者センター、移民労働者の間に理解と団結の橋渡しに取り組んできている。それは、①移民労働者のリーダーシップ育成の助成、②組合員や移民労働者、コミュニティの人たちが、経済的公正のために協力することができる場の創設、③組合や労働者センターのスタッフや指導者のためのプログラムやワークショップの創設といった活動を通して行なっている。

UCLAレイバーセンターは、「ロサンゼルス労働運動の組合指導者によって一九八六年に結成された。C I W Aの任務は、I R C Aのアムネ

スティにより正規化した移民労働者による民主的な準組合員組織を設立し、労働運動と統合さ

せることがあった。C I W Aは、ロサンゼルスでの移民労働者組織化の最初の本格的な試みの一つであった。一九九一年のアメリカン・レーシング・イクイップメント社(American Racing Equipment)の山猫ストと一九九二年の壁職人のストライキ(drywall strike)の時、C I W Aはこの二つの移民労働者の団体に組織化を勝ち取る支援を行ない、効果的な役割を果たしたのである。

一センターは、リーダー育成教育分野においていくつかの「記録」をつくった。これらの活動は、労働運動から好評を得ている。

① 国内初のスペイン語の組合リーダー育成教育

- ② 国内初のアジア系アメリカ人の組合リーダー育成教育
- ③ カリフォルニアで初のアフリカ系アメリカ人の組合リーダー育成教育
- ④ 国内初のレズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー(LGBT)の組合リーダー育成教育

ダウントウン・レイバーセンターは、リーダーの育成と、組合や労働者センター、コミュニティ団体の関係構築を円滑にする活動の中心(central hub)となりつつあり、ロサンゼルス全体での労働運動と経済的公正を求める運動を強める役割を果たしている。四〇〇〇平方フィートの広さがある事務所には、中心部に参加者二〇〇人まで収容できる会議室が設けられている。ダウントウン・レイバーセンターは、頻繁に組合やコミュニティの協力者によって利用されている。

◇ 移民労働者資料センターの設立

I W R C は以下のプログラムを通じて、移民

の権利のための運動 (immigrant-rights movement) を労働運動と結びつける活動を行なっている。(1) 移民と移民の権利に関する組合指導者向けの一連の教育プログラム。(2) 移民のオルガナイザーや現場労働者のリーダー (worker leader)

向けの専門的なリーダーシップ養成ワークショップ。(3) ロサンゼルスの労働運動や労働者センターと、組合が組織されていない産業で働く低賃金の未組織労働者との間での戦略的な関係を築く。(4) 学生と労働運動や移民の権利のための運動とを結びつける学生のインターンシップ・プログラム。

◇ 組合指導者への教育活動

I W R C は、U C L A ダウントウン・レイバーセンターのスペースや施設を利用して、ロサンゼルスの労働運動やその他の移民労働者向けのコミュニティに根ざした取組みのための情報センターや指導者トレーニング機関としての機能を果たしている。また I W R C は、ロサンゼルスでの社会的公正を求める運動 (social-justice movements) を前進させるために、オルガナイザーや職場委員 (shop stewards)、移民労働者の指導者向けリーダーシップ・トレーニングやワークショップを提供している。

加えて I W R C は、労働組合や移民の権利のための団体、労働者センターが、研究刊行物やリーダーシップ・コミュニケイション教育カリキュラム、組織化のハンドブック、会議スペース、コンピューター設備を利用できる情報センターと

なるように計画している。さらにレイバーセンターは、学生インターンシップ・プログラムによつて、大学院生や学部生の学生インターンに、ロサンゼルス中の組合やコミュニティ組織とともに働く機会を提供し続けている。

最後に I W R C は、ロサンゼルス中の(1)組合と労働者センター間、(2)組合員と低賃金産業で働く非組合労働者間の戦略的関係の計画を練り、その関係の発展をするための重要な媒体としての役目を果たしている。

I W R C は、移民労働者に影響を及ぼす問題について、組合オルガナイザーや職場委員、活動家が自由に参加できるワークショップや講演を月一回行なつていて。加えて、「U C L A 労働安全衛生 (U C L A L O S H) プログラム」は I W R C と提携して、オルガナイザーや活動家の職場の安全衛生問題に関する一連のワークショップを取り上げるテーマには以下のものが含まれている。

- ① 移民改革・政策に関する問題
- ② 社会保障番号や名前が社会保障庁の記録と合致しないことを知らせる通知 (social security no-match letters)⁽¹⁾ やその他の雇用証明に関する問題
- ③ 移民労働者を守るのに有効な組合協約の

文言の創案

- ④ 議会の仕組み、選挙の仕組みの理解
 - ⑤ 職場の安全衛生
 - ⑥ 国境を越えた（cross-border）団結の構築
 - ⑦ 公正な職場にするために闘う方法
 - ⑧ 労働や移民の課題を促進するためのメッセージの構築とメディアの利用
- ◇—「**他の世代の準備をする**
- スペイン語のリーダー育成学校**

110011年三月にUCLALレイバーセンターは、全国初の複数の組合が参加するスペイン語によるリーダーシップ養成プログラムを実施した。レイバーセンターは、組合員や他の移民労働者に対する指導力開発の支援という役割を持つているが、「コレジオ」(Colegio)⁽²⁾として知られているリーダーシップ養成学校はその一部であると考えている。この学校で学ぶことや、組合員や移民労働者たちが労働運動や移民の権利のための運動のなかで、闘いの指導的役割を担うことができるようになることができる。

コレジオは、UCLADowntown・レイバーセンターのリーダーシップ養成過程の重要な部分を占める。昨年、UCLADowntown・レイバーセンターは、「コレジオII」(Colegio II)を始めた。コレジオは初めて、様々な組合の組合員だけでなく、労働者センターを通じてロサンゼルスで組織化に取り組む移民労働者をも呼び集めたのである。

組合側からの参加者には、「全米サービス従業員組合」(Service Employees International Union: SEIU)のローカル一八七七、四三四B、三九九からのビル清掃労働者や病院・在宅介護労働者が含まれていた。コミニティ側の参加者は、以下の労働者たちであった。「ロサンゼルス人道的な移民の権利のための連合」(Coalition for

Humane Immigrant Rights of Los Angeles: CHIRLA)や「南カリフォルニア民衆教育協会」(Institute of Popular Education of Southern California : IDEPSCA)のブログから参加した日雇い労働者、「衣料労働者センター」(Garment Worker Center)から参加した日雇い労働者、「衣料労働者センター」(Garment Worker Center : KWIA)からのスーパークリーン移民労働者擁護団体」(Korean Immigrant Workers Advocate : KWIA)からのスーパークリーンの労働者、「メンテナンス協同組合信託基金」(Maintenance Cooperation Trust Fund)から組合未加入の清掃労働者、CHIRLAの家事労働者プロジェクトから参加した家事労働者である。コレジオが街の中心部にあるダントン・レイバーセンターで行なわれて「る」

とは、多くの組合や労働者センターにとつてコレジオをたいへん利用しやすいものにしてくる。コレジオ教育に深く根ざした優秀なファシリテーターのおかげでIWRCCは、だれでもわかる経済ゲームや、グループ・ロールプレイング、出来事を話す「ストーリーテリング」(story telling)、フォーラムシアター⁽³⁾、身体図づくり(body mapping)、小グループ討論などの様々なテクニックを利用している。すべての授業は、参加者に対して学習内容の練習、議論、省察を求めている。コレジオから、ワークショップのトピックの例をあげると以下のとおりである。

- ① 組織化の基本原理・多民族・多人種という状況のなかで効果的に活動できるスキルをつけることに焦点を置き、一対一の組織化や家庭訪問、積極的な組織化キャンペーンに組合員が参加するよう勧誘する方法などのトレーニング。

- ② 政治的訓練：地方自治体、州政府、連邦政府の構造やプロセスを理解するためのワーキングショップだけでなく、投票者教育

- ③ ケットの労働者、「メンテナンス協同組合信託基金」(Maintenance Cooperation Trust Fund)から組合未加入の清掃労働者、CHIRLAの家事労働者プロジェクトから参加した家事労働者である。コレジオが街の中心部にあるダントン・レイバーセンターで行なわれて「る」
vote campaigns)に関するトレーニング。
- ④ 会議運営の技術開発・会議の円滑的運営、合意形成、議案作成の方法などに関するトレーニング。

- ⑤ 歴史年表分析(historical timeline analysis)：労働者や移民の権利のための運動についての年表を用いて、歴史上の事件

に関する教育。

最初のコレジオ以降、UCLAダウンタウン・レイバーセンターは、移民労働者が技能開発や指導力開発のワークショップに参加することができる中心的な活動場所として登場したのである。第二言語としての英語(ESL)やパソコンのクラスから民衆教育の方法論にもとづいたワークショップまで、ダウンタウン・レイバーセンターは労働者に、集団的なリーダーシップ養成や団結を築く活動に携わるための場を提供している。コレジオⅡは、最初のコレジオと同様に、移民労働者のなかから強力なリーダーシップを生み出すという手法を探っている。このプログラムでは、トレーナー育成手法による指導力の開発に焦点を当てて、斬新的な参加型ワークショップと政治教育を行なっている。コレジオⅡは、主要組合や労働者センター、産業を代表する約四〇人の移民労働者から構成される強力かつ多様性をもつ指導者の基盤を形成した。IWRCCは、移民労働者向けのコレジオのこうした伝統を地域全体で続けるつもりである。コレジオを通じてIWRCCは、参加者が、市や郡、州のレベルでトレーナーとして、あるいは指導者としての役割を果たす機会を促進する。加えて、ダイナミックなロサンゼルスの労働運動の舞台には、経験豊かな新しい移民労働者の指導者が存在しているが、IWRCCは、彼らのネットワーク形成や能力開発を容

易にする場としての機能を果たしている。IWRCCを通じてこの労働者たちは、ロサンゼルス中の組合組織化キャンペーンや労働者の権利のためのキャンペーンとのつながりをつくることができるのである。コレジオに参加することでも自分たちの団結を強めることをIWRCCは援助している。

◇労働運動と協力者たちの架け橋となる

過去一〇年間の間に、カリフォルニアは、移民労働者センターの設立の増加を経験してきた。これらの労働者センターは、新たな移民や低賃金労働者を代表する媒介組織(intermediary organizations)となり、移民たちが職場の問題に取り組み、変革をめざす運動に参加することを援助してきた。二〇〇四年一〇月にはレイバーセンターは、カリフォルニア州全体の労働者センターの大会を主催した。労働者センターは、自分たちの課題について議論し、活動を問い合わせ批判的反省(critical reflection)を行ない、将来に向けた戦略的ロードマップを練り上げたのである。

◇学生を労働運動と移民の権利のための運動と結びつける

会議での一つの重要な関心事は、労働組合と労働者センターとの間の関係をさらに深めていくことであった。会議の招集以降、UCLAレイバーセンターは、組合と労働者センターとの間の戦略的な関係を積極的に促進してきている。たとえばレイバーセンターは、AFL-CIO

と「全国日雇労働者組織化ネットワーク」

(National Day Laborer Organizing Network: NDLON)との間の会議開催を促進し、そ

れは全国レベルや地域レベルでの関係を発展させ

る方法が議論された。これらの会議は、AFL-CIOとNDLONが最近結んだ歴史的なパートナーシップ合意につながったのである。現

在UCLAレイバーセンターは、住宅建設産業に焦点を当てた共同の組織化ニシアチブのために、NDLONと「レイバラーズ」(Laborers International Union of North America: LIUNA)

との間の会議開催に携わっている。IWRCCはUCLAダウンタウン・レイバーセンターを通じて、労働者センターとロサンゼルス労働運動の間の重要な橋渡しを行ない、戦略的関係を築くための中心的な機関となつていている。加えてIWRCCは、多くの低賃金産業の未組織労働者に、労働運動について学び、組合指導者やオルガナイザーと接触する場を提供しているのである。

を提供している。過去五年間にUCLAレイバーセンターは、年に一度の「夏期労働運動インターンシップ・プログラム」(Labor Summer Program : LSIP)を通じて、ロサンゼルス労働運動や革新的運動に重要な貢献をしてきている。このプログラムは、南カリフォルニアの労働組合やコミュニティを基盤とした労働者センターでのフルタイムの職に、数十の卒業生を送り出してきたという功績がある。

学生は、インターンシップの経験を通して、多種多様の研究プロジェクトや組織化キャンペーンに取り組んできている。この学生たちは、労働者への働きかけ (outreach to workers) から企業リサーチに至るまで、運動のなかでの将来の仕事に役立つかけがえのない技能を獲得している。夏期インターンシップ・プログラムのインターン出身者の多くは、ロサンゼルス中の組合やコミュニティ組織において指導的立場で働いている。IWRCSは、インターンシップ・プログラムの開講を続け、運動への就職支援をすることとUCLAの学生を労働運動と結びつけている。

◇ 結論

現在、われわれは、ロサンゼルスでの歴史的瞬間に立っている。なぜなら、移民の権利のための運動と労働運動との強力な関係が存在するからである。最近、何百万もの移民が全国的に

大規模なデモや集会に動員されたが、このことは戦略的な協力関係の潜在力を示している。多くの労働団体や移民の権利のための団体は、移民労働者をこれらの運動の将来の指導者として育成することの重要性を認識している。三月二十五日と五月一日に何百万もの移民が大規模に動員され、労働組合が精力的に活動することで、ロサンゼルスは、この移民の大高揚と労働者のエンパワーメントという新しい波の中心となっている。IWRCSは、この相乗効果を容易にし、移民と労働運動との間の持続可能な橋を架けるための、重要な共同の場となっているのである。

【以下、注は記者による】

(1) この通知は、被雇用者の所得・課税証明に記載されている社会保障番号や名前が、社会保険庁の記録と合致しない際に、社会保険庁から使用者や従業員宛に送付されるものである。この不一致は、入力ミスや氏名変更の申告漏れ、事務的誤りなどによって生じるもので、この手紙を受け取ったからといって、使用者が当該労働者に対し、解雇などの不利益となる対応をすべきではないということが通知に記載されている。しかし、使用者のなかには、労働者が市民権を持っていなかつたり、労働許可を得ていないことの通知であるとして、労働者を解雇する者もいる。そうした問題が、とくに低賃金労働者、移民労働者のなかで多く生じている。

(2) スペイン語で学校。

- (3) 演劇を通じて観客とともに考え、討論する手法。 ブラジルの演出家、アウグスト・ボアールが体系化した。

Kent Wong
Victor Narro
なかじま じょう